

授業概要

人類は自然のもたらす様々な恩恵を享受することによって生存しているにもかかわらず、現代社会はそれらの恩恵を過小評価し、環境破壊が続いています。本講義では、自然科学・社会学的な視点から「環境問題」を捉え、問題解決には何が必要なのかを考えることを目的に、講義する。扱うテーマは全て、①物事を様々な角度から考えること、②物事を批判的に見る目を持つこと、③常に弱者へ配慮を忘れないようにすること、④科学の限界を知ること、の4つの視座から成り、特に「人と自然とのつながり」に焦点をあてています。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（講義の進め方や成績の評価方法などについて）
第 2 回	野生動物への餌づけ（野生動物へ餌をあげることによる影響）
第 3 回	野生動物の交通事故（野生動物の交通事故の原因と対策）
第 4 回	絶滅の危機に瀕している生き物たち1（レッドリストとレッドデータブック）
第 5 回	絶滅の危機に瀕している生き物たち2（生物が絶滅する原因）
第 6 回	森林機能と緑のダム（きれいな水を生み出すしくみ）
第 7 回	河川にすむ生き物たちとダム（ダムが生み出す功罪）
第 8 回	干潟にすむ生き物たち（「諫早干拓事業」を通して考える現代の農林水産業）
第 9 回	漁業資源の枯渇（魚介類の消費と乱獲から考える南北問題）
第 10 回	サンゴ礁にすむ生き物たち1（海の熱帯雨林「サンゴ礁」の成り立ちとしくみ）
第 11 回	サンゴ礁にすむ生き物たち2（沖縄に集中する米軍基地と環境問題とのかかわり）
第 12 回	戦争と自然破壊（今も続くベトナム戦争やイラク戦争の爪痕）
第 13 回	山と海をつなぐ川1（山は海の恋人とよばれる理由とは）
第 14 回	山と海をつなぐ川2（サケ・マス類の研究からわかる山と海をつなぐ）
第 15 回	文明の崩壊と自然破壊（古代文明の衰退事例から学ぶ自然保護の重要性）
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・「環境問題」に興味を持つことができる
- ・「環境問題」と自分の生活や社会とが密接につながっていることを把握・理解できる
- ・「環境問題」の解決のために自ら行動を起こすことができる

履修上の注意

皆が知らない「環境問題」に関する驚愕の事実や映像を集めた内容となっているため、かなり楽しめると思います。ただし受講人数が多いため、①適切な人数制限を行なう可能性が高い、②正当な理由なくガイダンスに出席しなかった場合は履修を認めない、③出席しても寝てばかりいたり、授業を聞いていなかったり、スマホを触る、授業中に勝手に出ていくなどをする受講生に対して単位は出さない、などの厳しい条件を設けますので、やる気がない受講生ははじめから履修しないように注意してください。

また、実習等で頻りに休む可能性がある場合は、時期をずらして履修するようにしてください（特にこども発達学科）。遅刻については公共交通機関の遅延を除き、授業開始 20 分以上が経過した際の入室は認めません。

予習・復習

予習は次回の講義で扱うテーマのチェックは必ずしておいてください。原則的に講義毎に必ずレポートまたは感想文を提出してもらうことで復習の一環とします。これは講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、自分のものにするための訓練でもあります。

評価方法

講義時間内実施レポート（70%）と定期テキスト（30%）によって評価します。

テキスト

- ・教科書名：『生物多様性と現代社会：「生命の輪」30の物語』
- ・著者名：小島望
- ・出版社名：農山漁村文化協会出版
- ・出版年：2010年